

令和4年度 学校評価実施報告書

学校番号 59

学校名 千葉県立柏中央高等学校

課程名 全日制

領域	自己評価の結果 (達成状況、結果の分析)	改善方策 (自己評価の結果を踏まえた課題・改善の方向)
学校経営	<p>①小論文指導65名、面接練習108名、DVD講座申込54名(1年)、英語検定受験者数726名、合格者2級22%。学校ホームページを活用し、生徒の日常生活を配信、緊急時の対応として一斉メールを逐次活用した。</p> <p>②授業評価アンケートの中で「ねらいや目標が明確である」の肯定的評価88.9%。重点教育目標に沿って全職員が授業実践に取り組んでいる。初任者・フォローアップ研修等の研究授業を実施。</p> <p>③部活動加入率：4月約80%。(昨年度と同率)</p> <p>④タイムカードによる毎月の出退勤時間の把握。超過勤務月80時間を超える教員は減少傾向。主な超過理由は、大会前の土日休日の部活動指導。</p> <p>⑤コロナ禍のためミニ集会は実施できなかったが、可能な限り連携して実施した。</p> <p>⑥体育施設は毎月、その他施設の安全点検を学期に1回実施。要修繕箇所は随時改修。校内の不要物の撤去。学校評価「学習環境の整備」生徒83.7%、保護者92.7%。</p> <p>⑦研修動画視聴等、複数回の不祥事防止研修を実施。</p>	<p>①指導内容の充実と職員負荷の平準化。図書情報部による学校ホームページの更新を推進する。一斉メール、Teamsの更なる有効活用。検定合格のための取組を強化。</p> <p>②学力向上委員会を中心に教科・学年と連携し、学習における明確な目標の提示、評価等の工夫を進め、研修の充実を図る。良さを活かし伸ばす生徒主体の活動の推進。</p> <p>③入部の際の各部活動の状況説明や3年間を見据えた指導計画。部活動のガイドラインに従った毎月の活動計画の作成。</p> <p>④部活動のガイドラインの遵守や教員の意識改革と生徒・保護者の意向の理解を進める。</p> <p>⑤ミニ集会、授業公開、柏王祭等の来校者による学校評価を積極的に取り入れるとともに、コミュニティスクール移行に向けた準備を行う。</p> <p>⑥安全点検を継続。トイレ等校内の老朽化したの箇所の補修・改善を進める。</p> <p>⑦標語やポスター等の掲示と日々の呼びかけ。モラルアップ委員会活動の活性化。今後も適宜不祥事防止研修を実施。</p>
学習指導	<p>①管理職による授業観察を年2回以上実施し、授業後に助言。授業者にアドバイスを行う。</p> <p>②7・12月に生徒による授業評価を実施、「授業に集中」87.9%、「家庭学習習慣」58.4%。学校評価「学力のつく授業が行われている」生徒80.4%、保護者85.8%。</p> <p>③授業力向上を目指した他校への授業参観5名(小2・中2・特1)。</p> <p>④1・2年校内実力テスト3回実施、スタディーサポート活用。3年模試希望者：7回、延べ948名受験。模擬試験の分析に係る職員研修会を実施。</p> <p>⑤柏王ゼミ1月現在：1学期5講座、夏季休業中11講座、2学期6講座。その他、英語検定補習を実施。</p>	<p>①学校内外への授業公開の機会を増やし、教科会を活性化し、全職員の授業力向上を図る。</p> <p>②学習指導計画・シラバスの充実と教科内の共通理解による評価の適正化。授業内容や導入・展開方法の工夫と各授業における明確な目標の提示。ICT活用を進めるとともに新教育課程の見直しと新たな評価方法の検証、改善に取り組む。</p> <p>③他校を参観する若手教員を増加させるとともにアクティブラーナーの活用を促進。</p> <p>④学力向上委員会・進路指導部を中心に分析結果の課題に対する具体的方策を各教科で検討・実践する。スタディーサポートの有効活用を継続。</p> <p>⑤基礎科目の柏王ゼミの安定開設。夏季休業中等の部活動との実施時期の調整。</p>
生徒指導	<p>①担任が年間2回程度生徒面談を実施。6月に保護者面談を実施、保護者の都合により休日にも実施。</p> <p>②12月にセクハラ・体罰アンケートを実施。聞き取りを丁寧に行い解決につなげる。学校評価「セクハラ・体罰防止に関する体制」生徒89.9%、保護者92.2%。</p> <p>③思いやり登校違反者の増加、遅刻者数は減少。登下校時の交通マナーに関する苦情がある。学校評価「ルール・マナー、基本的な生活習慣」生徒82.4%、保護者92.2%。</p> <p>④特別支援・教育相談委員会を学期に1回、ケース会議やミーティングを随時実施。スクールカウンセラーによる講演会を実施。</p> <p>⑤整容指導を各学期始めに1回実施。</p> <p>⑥地震を想定した全校避難訓練及びワンポイント危険回避の訓練を実施。</p>	<p>①ゆとりある生徒個別面談や保護者面談期間の設定。</p> <p>②一人一人を大切に敬う態度の醸成。セクハラ・体罰について具体的な注意喚起。定期的な生活アンケートの実施、SNS利用等多様な相談体制の周知。</p> <p>③交通ルールの遵守とマナーや思いやりに関する指導の強化。職員自らが模範となって実践。</p> <p>④課題を抱える生徒に係る担任や学年職員の共通理解と指導方法を研修。スクールカウンセラーや関係機関有識者による研修会の実施。</p> <p>⑤生活指導方法や内容の改善・見直し・共通理解。ルール作りに生徒も参画する。保護者と協力し合えるように職員への指導を徹底。</p> <p>⑥実効性のある危機管理や危険回避、人命救助等を学ぶ機会を確保。地域ふるさと協議会や避難区域住民との連携と県立学校の運営方針の共通理解。</p>
キャリア教育	<p>①進路ガイダンス実施(生徒向け：1年3回、2年4回、3年4回)。外部講師を招いた1・2年保護者対象進路説明会、3年保護者は三者面談を実施。</p> <p>②進路指導部による近隣事業所等へのインターンシップ：93名(1年)参加。</p> <p>③学校評価「生徒の希望や適性を生かす進路指導」生徒81.9%、保護者83.2%。</p>	<p>①職業理解等の様々なテーマに関する確実な情報提供と進路説明会を実施。生徒の進路希望に合わせた行事や学習機会の提供と個別対応。</p> <p>②高大接続に係る情報共有と職業選択に係る適性や能力を育成するキャリア教育の充実。</p> <p>③職員間の情報の共有化と蓄積。連携・協力意識の強化。全職員で本校の進路指導方針の共通理解。</p>
地域連携	<p>①インターンシップ参加。科学部・書道部：夏休み子ども教室実施。</p> <p>②防災・防犯活動への協力(柏駅周辺校外補導、地域防災推進連絡会議「地域防災研修会」実施)</p>	<p>①コロナ禍の終息を見据えて、次年度以降、関係各部で地域連携行事の更なる活性化に取り組む。</p> <p>②柏市や地域ふるさと協議会等との連携強化。ホームページ等での情報発信を推進する。</p>

(第3号様式-2)

自己評価・学校関係者評価・今後の改善方策の公表について、時期や公表方法を明確に記入する。	3月に本校ホームページにおいて、自己評価・学校関係者評価・今後の改善方策を公表する。
--	--

領域	学校関係者評価の結果	学校評価のまとめ (課題と次年度に向けた改善策)
学校経営	①ホームページの更新がよくされている。今後も学校の様子や雰囲気発信してほしい。引き続き生徒のために、教育活動を充実させるよう取り組んでほしい。 ②学校評価アンケートで、「楽しく学校生活を送っている」の項目が、生徒、保護者とも昨年度より高い評価が得られている。今後も生徒のために、取り組んでほしい。 ③部活動の指導において、生徒が生き生きと活動している姿を見ることができ、先生方が熱心に指導していただいている様子がわかった。 ④業務改善の視点から、部活動の計画的な休みや下校時間の徹底を図るなど、職員の働き方に関して考慮が必要である。 ⑤来年度、コロナ終息後の行事の活性化が望まれる。 ⑥学校内外の安全点検は適切に行われている。 ⑦今後も研修に積極的に取り組み、信頼される教職員の育成に努めてほしい。	①学校の様子を保護者や地域の方に知っていただくよう、今後もホームページの更新を積極的に行う。 ②学校教育目標実現のために、本校生徒の様子を観察し、課題を職員で共通理解を図り、指導に取り組んでいる。引き続き、生徒の長所を伸ばし、学校の魅力を更に高められるよう職員が一丸となって取り組んでいくよう指導を行う。 ③④部活動の運営をガイドラインに基づく年間計画の遵守及び教員の意識改革によって、文武不岐の理念の上に立ち、効果的・効率的に部活動を行い、併せて教員の働き方改革を推進する。 ⑤行事の充実は生徒・保護者からも要望されており、教育活動の中でも重要課題として取り組む。 ⑥学校内外の安全点検を継続し、危険箇所へは迅速に対応する。 ⑦研修会を充実させ、不祥事を自分事として捉え、絶対起こさないという決意を持たせるよう取り組む。
学習指導	①②生徒は大変真面目に取り組んでいる。アンケートの集計結果からも「授業に意欲的に取り組んでいる」の項目において、生徒、保護者とも高い評価が得られている。しかし、「家庭での学習習慣」の項目が全体的に低く、学習習慣の定着が課題である。 ③若手の教員が、小中学校等に授業を見に来てくれた。今後も交流を深め、地域で生徒を育てよう取り組んでほしい。 ④⑤生徒の学力向上に向けて様々な取組が行われている。模試をリニューアルし、生徒の実態に合ったものにしていく。柏王ゼミについては、部活動との調整を行い、効率よく実施できるようにしてほしい。	①②学力向上委員会を中心に、研修を企画し、授業力向上を行った。1学年希望者にタブレットを導入し、授業展開の工夫を行っている。来年度は、更にICTを活用した授業を導入し、個別最適化された学びを実現する。生徒の自宅学習時間については、学校の授業との連携を図りながらClassiによる課題の配信も進める。 ③他校種との交流では、刺激を受けることが多く、若手教員を中心に積極的に公開授業に参加させる。 ④⑤生徒の実態を把握し、引き続きこれまでの学力向上の取組を促進し、実効性あるものとなるよう修正を加え、改善していく。
生徒指導	①②③科学部の生き物ガイドを町内会全世帯約3000戸に配布した。部員たちの努力に感動した。また、休日に活動している生徒と地域の人が交流する姿は、とても素晴らしい。地域の学校として頑張ってもらいたい。 ④⑤登下校のマナーについて地域から注意を受けるといふことだが、この地域は交通の便が悪く、生徒数も多いこともあるが、安全第一で指導してほしい。 ⑥学校での安全教育・防災教育は適切に行われている。コロナ終息後は、地域と協働での防災行事の実現も望まれる。	①②③地域のお兄さん、お姉さんをキャッチフレーズに、地域との交流を深め、様々な体験の中で、生徒の心を育成する。いじめ防止や校則などのルールを見直す際、生徒会を中心に話し合いを持たせ、生徒が主体的に生活態度の改善や規律を守るよう工夫する。 ④⑤生徒指導に関する講演会、研修会などを実施し、保護者、生徒、教員が学ぶ機会を提供し、より一層生徒のサポートを図る。 ⑥コロナ以前の規模で、避難訓練等を行い、災害発生時に適切な対応ができるよう、普段から安全に対する意識を高めていく。
キャリア教育	①②③コロナ禍ではあったが、インターンシップを充実させたことは素晴らしい。職業観・就業観を高める取組は、地域と連携し、地域で育てる機会でもあるので、今後もしっかりと取り組んでほしい。	①②③総合的な探究の時間等を活用してSDGsなどの課題の理解を促進するとともに、進路説明会、個人面談などを通し、生徒の勤労観・職業観・進路意識を高め、変化の激しい社会をたくましく生き抜く人間力を育成する。更にインターンシップを拡大し、体験活動を充実させ、生徒の自己実現をサポートする体制を作る。
地域連携	①②コロナにより地域の文化祭等の行事が中止となり、残念だった。来年度、コロナが収束したら、地域とのつながりを強めるためにも積極的に参加してもらいたい。	①②地域の行事に積極的に参加し、地域の課題や地域の良さを生徒が考え学ぶ良い機会を、今後の教育活動の中に増やしていく。